

### ③若手が地域で活躍する方法

現役世代の若手は、暮らしている地域の歴史や事情にうといことが多い。一方で町会の役員さんらは、仕事や子育てに忙しい若手の事情を知らないことも。お互いの誤解が生まれないようにすることが大切だと思っています。

地域行事の会議には、PTA メンバー何人かで一緒に参加するようにしています。PTA 代表が1人だと、個人の意見と見られがちですが、複数で参加すると、若手全体の声として伝わりやすいし、相互の理解につながりやすいです。

これまでは行事のたびにスタッフ集めに苦労していましたが、あちこちに声をかけるうち、中心メンバーが年々増えてきています。その結束の象徴としてマラソンサークル (!?) もできました。

昨年からは新しい中心メンバーが主となり、竹などを準備して「流しそうめん」を企画したり、既存の行事にプラスワンしたりなど、地域とPTAの新たな連携が生まれています。

敷津地域 大淵太郎さん



#### ★ POINT!

- ① 地域行事の会議には仲間と一緒に参加。地域の役員さんと若手の理解を深める。
- ② 人脈はフル活用。幼稚園 PTA か PTAOB ご子息の仲間まで、とにかく声をかける。
- ③ 20 代の若手に関わってもらうため、お祭りのブースの企画・運営をまかせた

#### こんな時、どうしたら？

- Q1、声をかけて「大変じゃないか？」と聞かれたら？  
A、しんどいことはきちんと説明した上で、楽しさを伝えています。
- Q2、地域の会議に若手が入っても、発言できないんじゃない？  
A、複数で行くと、みんなの意見として伝えやすくなります。

### ④地域・校区を超えた活動にする方法

会議・連絡・調整・・・めんどろなことが増えそう。地域・校区を超えた活動の意味について常に自分に問いかけています。

自分の学校のPTAから、浪速区、大阪市さらに近畿のPTAの集まりに参加するようになりました。各地のPTA活動から学ぶことが多くて、自分の学校での活動の刺激にもなっています。

せっきくのチャレンジも前例がないと、学校や行政から断られることもあります。最近力を入れている「花火大会」では、他の学校で先行事例を知っていたから、学校や行政の理解を得ることが出来ました。普段から他地域と繋がり、情報共有する大切さを感じています。

情報があれば、道具を借りたり、イベントのノウハウを教えてもらったり、一緒に開催したり、より楽しく出来る可能性が広がります。

やっぱり地域・校区を超えたほうが、地元をもっとおもしろくできて「お得」です！

恵美地域 山口直敏さん



#### ★ POINT!

- ① 自分の地域だけだと「経験が無い」「道具が無い」とあきらめることも、他地域とつながれば、可能性が広がる。
- ② 面白いこと・楽しいことに人は集まる。



「タツジン」発表が始まります！



発表にみんな真剣そのもの



テーマで分かれ、さらに実践的に



今日繋がった仲間と早速パチリ